文化財通信くまもと

第３号
1991.3
熊本県教育委員会

黒橋貝塚で見つかった縄文土器

はじめに

第３号では、文化財調査第２係が発掘調査をおこなった遺跡の中で、主なものである黒橋貝塚・二子塚遺跡・鞠智城跡を取り上げます。文化財調査第２係では、道路や工業団地をつくったり、河川を改修したりする土木工事などに伴った発掘調査を主におこなっています。黒橋貝塚・二子塚遺跡の発掘調査がこれにあたります。また、第２係では研究を目的にした学術調査もおこなっています。鞠智城跡の発掘調査は、遺跡の範囲をつかんだり、どんなものが土の中に残っているかを調べるための調査です。

ここに書いてあることは、発掘調査で確認したことや成果のまとめです。さらに、くわしい報告は各遺跡の発掘調査報告書に発表してあったり、今後、発表していく予定です。

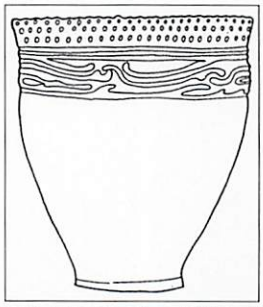
黒橋貝塚（国指定史跡）

1．所　在　地　熊本県下益城郡城南町大字下宮地字外田

2．広　　さ　1,200㎡

3．立　　地　河川内の中洲部分（標高 約3.5～5.5m）

4．遺跡の年代　縄文時代中期～後期、弥生、古墳、古代・中世、
（中心は縄文時代中期～後期）

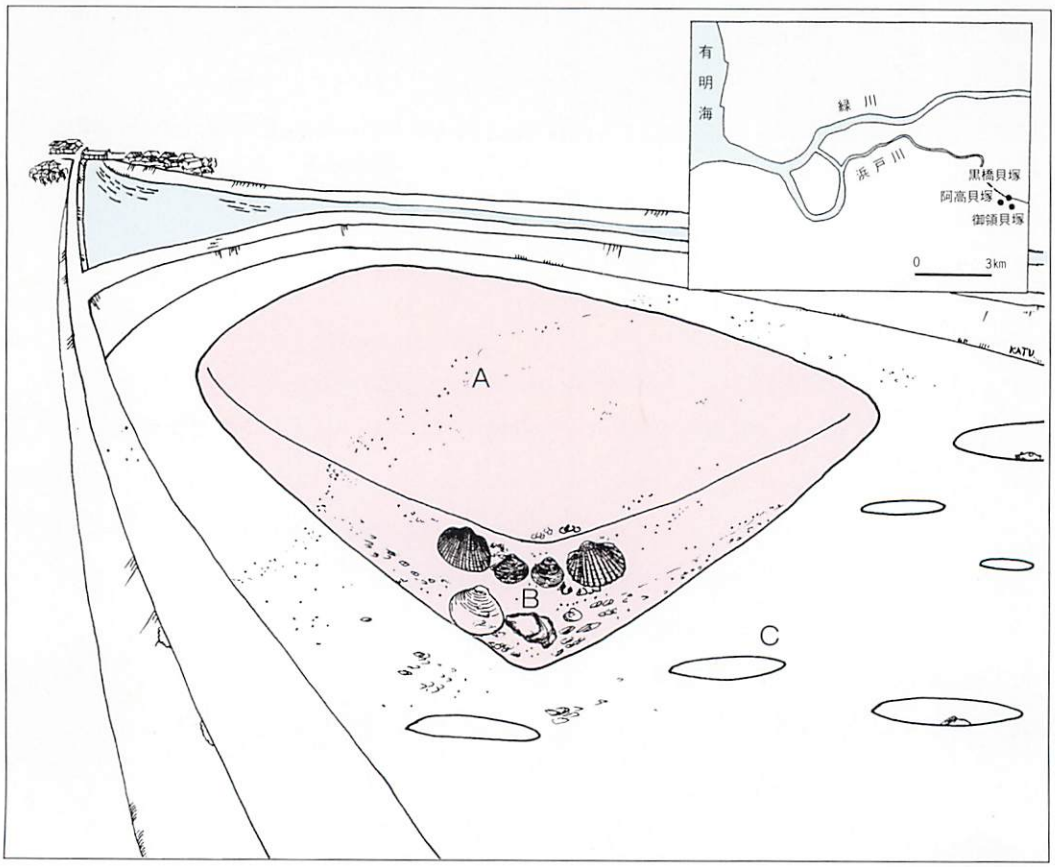


黒橋貝塚で見つかった縄文土器

縄文時代の人々はどんなくらしをしていたのでしょう。この貝が捨てられた場所（貝塚）から想像してみましょう。

今から約4,000～5,000年前、ここ城南町の浜戸川には海が広がっており、今では見られない動物も多く生きていたことがわかりました。また、貝層の中から20数体の人骨も見つかり、当時の人々の体格や死者への納めかたなどがわかります。

縄文人は貝やドングリを主食とし、石器で動物を狩り、その骨や角、キバで飾りを作り、お祭りをしていたのでしょう。また、ここ、黒橋では阿高式土器や南福寺式土器や出水式土器といったすばらしいうずまき模様の土器も多数見つかっています。



貝塚のようす

黒　橋　貝　塚

当時、生きていた生物。

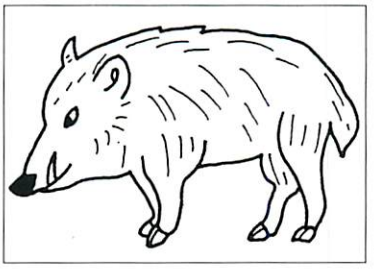
海…（動物・魚類…クジラ、サメ、タイ、スズキ、イワシなど
貝類…ヤマトシジミ、ハマグリ、ハイガイ、サルボウ、カキなど）

陸…（動物…イヌ、イノシシ、シカ、鳥類など
植物…どんぐり（いちいがし、あかがしなど））

貝塚で見つかったもの

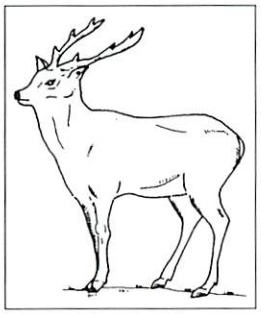
貝・骨・角でできた飾りもの

貝層から見つかった人骨
（A地点・出土）



イノシシ

クジラ・魚・猪（いのしし）の骨



主に鹿・猪などの頭骨下あご、骨盤、上腕、骨、角が見つかりました。

シカ

貝層のようす
（B地点）

ヤマトシジミ・カキ
ハマグリなど

石器
（石おの
やじり
おもり
など）

あごの骨（イノシシ・シカ）
（C地点出土）

二子塚遺跡

1．所　在　地　熊本県上益城郡嘉島町大字甘木字塚ノ上

2．広　　さ　約30,000㎡

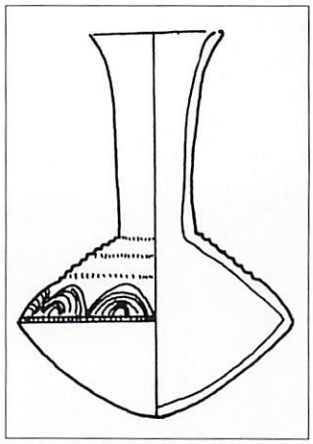
3．立　　地　丘陵上　標高約45m

4．遺跡の年代　縄文、弥生、古墳、歴史時代(特に弥生時代後期)

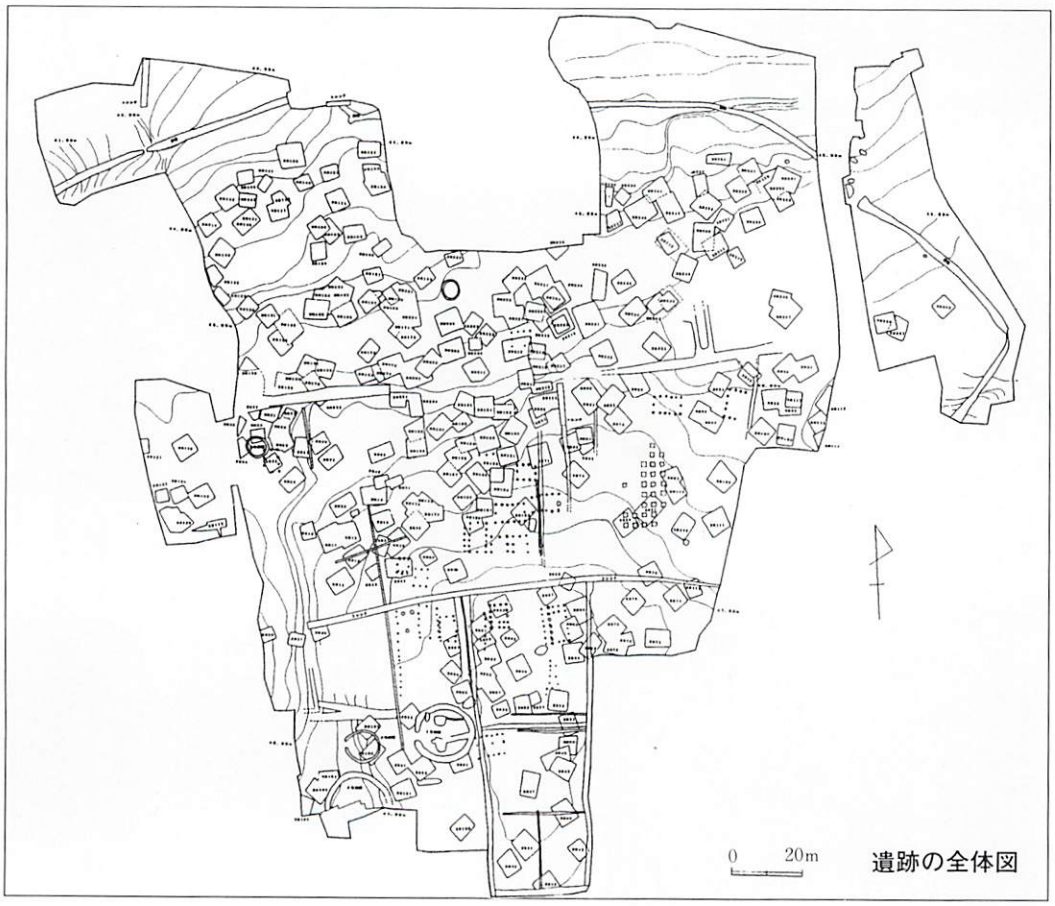
弥生時代は、のんびりした時代だったんでしょうか。「ムラ」と「ムラ」の争いを眼前に再現させてくれそうな遺跡が見られます。この二子塚遺跡（約1,600年前）もそのムラの一つです。力ある首長を頂いた強大なムラであったことがうかがえる遺物が数多く見つかりました。

ここではまた、大変めずらしい製鉄所あと、銅鏡片４点、また、重孤文長頸壺、野辺田式といわれるあまり模様をもたない土器も多数見つかっています。住居の数は267軒(竪穴住居跡)。

なお、ムラを守ったであろう条溝（みぞ）が300mにわたって発見されました。



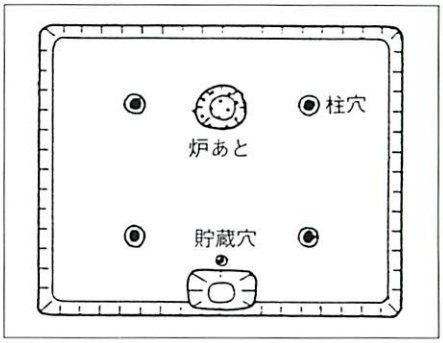
見つかった弥生土器
(重孤文長頸壺)



遺跡の全体図

二子塚遺跡

竪穴住居跡



竪穴住居跡（平面図）

防御用の溝をもつムラ

鞠智城跡

1．所 在 地　熊本県鹿本郡菊鹿町米原

【 歴　史 】

鞠智城は７世紀代の律令国家によって築城された古代の山城で、大宰府（大和朝廷の九州統括と対外交渉の基地）の支配下にあった６城（大野城・基肄城・金田城・鞠智城・三野城・稲積城）のうちの一城である。

城の呼称に古くは「鞠智」の文字が見え、後に「菊池」が用いられている。

『日本書紀』によると、７世紀中頃の日本は多事多難な時代であった。大化の改新(645年)後の国内整備もままならない状態の時に、朝鮮半島において重大な事態が発生したのである。日本と同盟関係にあった百済の救援のために出兵していた日本の水軍が、新羅・唐の水軍と白村江で激戦し(663年)、敗北の事態に至った。これにより百済は滅亡し、結果として日本は新羅・唐の急襲を想定しなければならなくなった。そこで国防のため、主に西日本地方を中心に次々と防塞施設が設けられたのである。

【 文献に見える鞠智城関連の記事 】

築城と廃絶の時期については何も記録が残っていないが、『続日本紀』に鞠智城の繕治(698年）を伝える記事がある。さらに、『文徳実録』『三代実録』には９世紀の中期から後半にかけての鞠智城が記載されている。

【 位　置 】

鞠智城の中心地は米原台地上（南側、菊池平野との比高差は100ｍ）に位置する。国土地理院発行の２万5000分の１地形図「菊池」によると、城跡内の長者山の位置は図幅北から0.5cm、西から14.1cmの所にある。

城域には内郭線（直径1.1㎞）と外郭線（直径3.6㎞）の２説がある。

【 平成２年度の調査成果 】

平成２年度は、県の特定事業と文化庁国庫補助事業により、平成２年７月より発掘調査を実施中である。調査区は長者山及びその北側裾部一帯で、調査面積は約10,000㎡に及ぶ。

平成３年３月上旬現在で、20棟を超える大型の建築址が検出されたが、形状からして、いずれも倉庫跡と考えられている。但し、構造的には多種多様で、礎石建物と掘立柱建物（検出建築址の大半を占める）に大別され、さらに礎石建物は掘り込み地業を伴うものとそうでないもの、掘立柱建物は総柱のものと中柱がないものとに細分された。

検出された建物の中で、最大のものは梁行7.8ｍ(3間)、桁行2.6ｍを測った。これらのものは、出土遺物により７世紀後半頃の遺構と推定される。

鞠 智 城 跡

宮野礎石より西方の土塁線（正面の山）を望む。右手は米原集落

検出された掘立柱建築址（正面の建物は中柱無し）

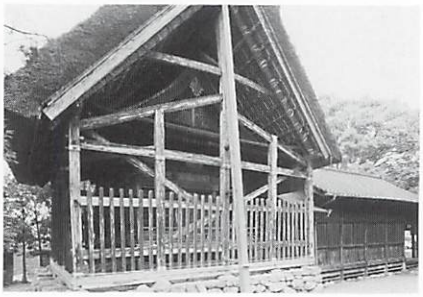
- 掘り込み地業を有する
  礎石建物と掘立掘建物
- 左手は総柱の掘立柱建物

平成２年度 国・県の指定文化財情報

今年度、国指定（３件）・県指定（２件）が新たに重要文化財に指定されました。わたしたちの文化財を理解し、大切に守りましょう。

【国指定】

水上村「**生善院観音堂（厨子共）**」
江戸時代初期の球磨地方における代表的寺院建築です。（県指定）



人吉市「**老神神社神殿、拝殿及び神供所**」
江戸時代初期の球磨地方の代表的神社建築です。（元県指定）

山江村「**山田大王神社神殿、拝殿及び神供所**」
中世の球磨地方を中心とした南日本の神社建築様式がうかがえる数少ない建造物です。

【県指定】

荒尾市「**武装石人**」
（９月12日指定）
荒尾市下井手三宮古墳の石人で、ほぼ完形を留めています。

大津町「**江藤家住宅**」
（主屋及び長屋門２月13日指定）
江戸時代中期から末期にかけての民家における「座敷」の変遷がたどれる主屋と、当時の姿を留める長屋門等が残っています。

〈編集後記〉

県内各地で調査に飛びまわっている職員に原稿を依頼するのは大変ですが、やっと第３号を出すことになり一安心です。これからも文化行政にご理解をお願いします。

第　３　号
平成３年３月31日発行
発行　熊本県教育庁文化課
熊本市水前寺６丁目18－1
電話　096-383-1111番　内6715・6716
印刷　㈱　有明印刷

02　教委　教文
③　005－2